

1694 · CENTRAL BANK · CURRENCY

イングランド銀行

戦争が通貨を生んだ。政府に融資し、紙幣発行権を得た銀行が、「中央銀行」という概念の原型となった。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

何が起きたか —— 戦費のために生まれた銀行

1694年、イングランド国王ウィリアム3世はフランスとの戦争（大同盟戦争、1688-1697）の真っただ中にいた。戦費は膨大で、国王の財政は逼迫していた。

スコットランド出身の商人ウィリアム・パターソンが提案したのが、民間から資金を集めて政府に貸し付ける銀行の設立だった。出資者たちは120万ポンドを提供し、見返りとして年8%の利息と「銀行券」の発行権を得た。

こうしてイングランド銀行（Bank of England）が設立された。戦争が、近代的な中央銀行を生んだのである。

WHY IT HAPPENED

なぜ必要だったか —— 国王の財布の限界

17世紀以前、国王の戦費調達手段は限られていた。

- 増税 —— 議会の承認が必要で、時間がかかる
- 貨幣の改鋳 —— 通貨の信頼を損なう
- 個人からの借入 —— 返済が滞ると信用を失う

実際、チャールズ2世は1672年に国庫停止（Stop of the Exchequer）を行い、債権者への返済を一方的に停止した。国王の借金は信用できないという認識が広まっていた。

民間の資金を制度的に動員する仕組み —— それがイングランド銀行だった。個人の国王ではなく、法人としての銀行が政府に融資する。この構造が、政府の信用を飛躍的に高めた。

WHAT CHANGED

何が変わったか —— 政府と通貨の関係の転換

イングランド銀行の設立は、通貨と政府の関係を根本的に変えた。

- 紙幣の誕生 —— 銀行券は金貨に代わる支払手段として流通し始めた。「約束」が「お金」になった
- 国債市場の発展 —— 政府が安定的に借入できるようになり、国債という金融商品が確立した

— 「最後の貸し手」の萌芽 —

金融危機の際に資金を供給する役割が、徐々にイングランド銀行に集約された

この構造は18世紀を通じて強化され、やがて世界中に広まった。日本銀行（1882年）、アメリカ連邦準備制度（1913年）。すべての中央銀行の原型は、1694年のロンドンにある。

WHAT REMAINS

今に残るもの — 中央銀行という制度

イングランド銀行が確立した「中央銀行」の概念は、現代の金融システムの根幹をなしている。

- 通貨発行権 — 法定通貨を発行する権限。現代では中央銀行の独占的権能
- 金融政策 — 金利の調整を通じて経済を安定させる機能
- 最後の貸し手 — 金融危機時に流動性を供給し、システム崩壊を防ぐ役割
- 政府の銀行 — 国庫の管理と国債の発行を担う

330年前に戦費調達のために生まれた仕組みが、現代の世界経済を支えるインフラとなっている。歴史の皮肉ではあるが、戦争こそが制度革新の最大の推進力だった。

FOR INVESTORS

投資家にとっての意味 — 通貨の本質を理解する

イングランド銀行の歴史は、投資家が理解すべき通貨の本質を教えてくれる。

- 通貨は「信用」で成り立っている — 金貨や銀貨の時代から、紙幣は「約束」に過ぎない。その約束の背後にあるのは中央銀行と政府への信頼
- 中央銀行の政策がすべてを動かす —
金利政策、量的緩和、通貨供給量。投資家は中央銀行の動向から目を離してはならない
- 「最後の貸し手」は両刃の剣 — 危機を救う力は、同時にモラルハザードを生む

通貨の価値が揺らぐとき、資産の価値もまた揺らぐ。中央銀行の歴史を知ると、投資の地図を手に入れることに等しい。

KEY TERMS

関連用語

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。